

調査名

孔番・深度

H=7 B-3 (60 ~ 65)

観察日

H27 7/29 7/30 8/7

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 60 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	05			2.5YR 6/2 灰褐色	✓ b	✓ IV	✓ C	γ	2		CM	
	01								0	5		
	61.33 61.40											
	65			2.5YR 6/3 灰褐色	✓ c	✓ V	✓ D	δ	3		CL	
	61.67											
	62		Gp		✓ b	✓ IV	✓ C	γ	2	0	3	CM
	62.23											
	05			2.5YR 6/2 灰褐色	✓ c	✓ V	✓ B	δ	3			
	63								0	5	CL	
	63.04											
	05				✓ c	✓ IV	✓ C	γ	2			
	64								0	7		
	64.17											
	05	64.52			✓ b	✓ IV	✓ C	γ	2		CM	
	64.72			2.5YR 6/4 灰褐色								
	65								0	4		

62.23以下端より連続的に連続。石英粒片は殆ど含まれる軟質粘土(0.2%)。色調は黄褐色(10YR 7/6)。厚さ1cm

59.69 ~ 59.75 m: HJ

上端5% [下端37%] まで連続的に連続。φ5~20μm 2R2のB1 粘片と粘片間の砂状部(5%)。砂状部(粘片)の粘片は分布不均。色調は10YR 7/6(2.5YR 7/3)。厚さ40~60μm

59.75 ~ 60.00 m: CL

割れ目状物の分布は少ない。

60.00 ~ 61.40 m: CM

粘片の砂状部(粘片)と粘片の間を多く含む。割れ目状物の分布は少ない。

粘片と粘片の一部は軽微な20μm 粘片を含む。

61.40 ~ 61.67 m: CL

粘片の砂状部(粘片)と粘片の間を多く含む。割れ目状物の分布は少ない。

61.67 ~ 62.23 m: CM

粘片の一部は軽微な粘片と粘片の間を多く含む。割れ目状物の分布は少ない。

粘片と粘片の一部は軽微な20μm 粘片を含む。

62.23 ~ 64.25 m: CL

粘片の砂状部(粘片)と粘片の間を多く含む。割れ目状物の分布は少ない。

粘片と粘片の一部は軽微な粘片と粘片の間を多く含む。

64.25 ~ 64.52 m: CL

粘片の砂状部(粘片)と粘片の間を多く含む。割れ目状物の分布は少ない。

粘片と粘片の一部は軽微な粘片と粘片の間を多く含む。

64.52 ~ 66.39 m: CM

粘片の砂状部(粘片)と粘片の間を多く含む。割れ目状物の分布は少ない。

粘片と粘片の一部は軽微な粘片と粘片の間を多く含む。

調査名

孔番・深度 H27 B-3 (65 ~ 70)

観察日 H27 7/29

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 65 (m)	深度 (m)	境界亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
	65.39			2.5YR 4/1 灰	✓	✓	✓	Y	2			CM ✓
0.5	65.61			2.5YR 6/2 灰	X	X	X	X				
66	66.05			2.5YR 6/3 灰	✓	✓	✓	Y	2	0	7	
0.5	66.39			2.5YR 6/3 灰	X	X	X	X				
67	67.00		Gp	2.5YR 7/3 灰	✓	✓	✓	0	2	0	9	
0.5	67.18			2.5YR 7/2 灰	✓	✓	✓	0	2			C2 ✓
68	68.06			2.5YR 7/2 灰	X	X	X	X		0	6	
0.5	68.60			2.5YR 7/3 灰	✓	✓	✓	E	3			D ✓
0.5	68.71			2.5YR 7/3 灰	✓	✓	✓	E	3			
69	68.93			2.5YR 7/3 灰	X	X	X	X		0	2	
0.5	69.95			2.5YR 7/2 灰	✓	✓	✓	0	3			C2 ✓
70	70.00			2.5YR 7/2 灰	✓	✓	✓	0	4			

65.19 m. 30° 割れ目の厚さ 10% 程度で酸化進む。薄く砂状部は
はじく。

65.34 m. 35° 割れ目の厚さ 25% 程度の硬質部は硬質
鉄泥石化。上部は 20% 程度の酸化部が伴う。

65.57 m. 35° 割れ目の厚さ 20% 程度の酸化部は 15% 程度
酸化。

65.61 m. 35° 割れ目 2 箇所 (2 以上の酸化部あり)。

66.09 m. 55° 割れ目の酸化部あり。コンクリート層あり。

66.37 ~ 66.80 m. 割れ目の厚さ 30 ~ 40% 程度の硬質
鉄泥石化。砂状部は酸化部が伴う。

66.39 ~ 68.06 m : C2
割れ目下側の酸化部は塊状物が多い。一部は割れ目の
酸化部が酸化部が伴う。
高角度の酸化部は酸化割れ目が多い。一部は酸化部が
酸化部が伴う。

67.12 m. 55° 割れ目の厚さ 5% 程度の酸化部ははじく。
割れ目は酸化部あり。

67.30 ~ 67.70 m. 60 ~ 20° 高角度割れ目に伴って
10% 程度の酸化部が伴う。上部は一部は厚さ 2 ~ 3%
酸化部あり。

68.06 ~ 68.93 m : D
酸化部は酸化部が伴う。10 ~ 20% 程度の酸化部は
酸化部が伴う。

68.40 ~ 68.60 m は酸化部が伴う。

68.67 m. 30° 割れ目の厚さ 15% 程度の硬質鉄泥石化部は
鉄泥石化部。上部は酸化部が伴う。

68.93 ~ 70.10 m : C2
30° 前後の割れ目の厚さ 10% 程度の酸化部は酸化部が伴う。
一部は厚さ 10% 程度の酸化部が伴う。酸化部が伴う。
酸化部が伴う。

69.70 ~ 70.00 m. 一部の割れ目と高角度の酸化部が伴う。
酸化部が伴う。

調査名

孔番・深度

427B-3 (70 ~ 75)

観察日

427
7/29

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 70 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
	70.10				X	✓	δ	γ	2		C/L	
	0.5				X	✓	δ	γ	2			
	71			2.5R 1/2 明褐色	✓	✓	δ	γ	4	0	2	D
	0.5				✓	✓	δ	γ	4	0	2	
	71.72				X	X	X					
	72		Gp		✓	✓	δ	3		0	2	C/L
	0.5				✓	✓	δ	3		0	2	
	72.05				X	X	X	X				
	72.93				✓	✓	δ	3		0	3	D
	73				✓	✓	δ	4		0	3	
	73.11				✓	✓	δ	3		0	3	
	73.38				X	X	X	X				
	0.5				X	X	X	X				
	74			2.5R 1/2 明褐色	✓	✓	δ	3		0	5	C/L
	0.5				✓	✓	δ	3		0	5	
	75				✓	✓	δ	3		0	5	
	75.00				✓	✓	δ	3		0	5	

70.10 ~ 71.72 m : D
 風化と変質と著しく軟化する。岩組織と割れ目は3割弱
 した。
 2.5R「2」の割れ目増幅。0.30m以下で岩片量
 多くなる。

70.17 ~ 70.20 m : 2.5R「2」の割れ目増幅。0.30m以下で岩片量
 多くなる。下盤側 厚さ10%の硬化した緑泥石化部
 存在。

70.20 ~ 71.30 m は 粘土質の砂化部と砂
 質、1%位の粘土質の砂化部に分布部がある。

71.30 m 以下は硬く岩片と粘土質の砂化部
 の砂。割れ目約1~2%の硬く「2」の粘土質の砂化部
 あり。

71.72 ~ 72.05 m : C/L
 10~20%の硬く岩片の砂。一部の岩片は粘土質
 の砂化部存在。
 全体の密着度の低い割れ目の中層に粘土質の砂化部
 の打撃による粘土質の砂化部。

72.05 ~ 72.17 m の2.5R「2」割れ目は 面状に褐色化し砂
 化部が増大した。

72.17 ~ 72.93 m : D
 72.93 ~ 73.11 m は 粘土質と岩組織と割れ目は粘土質
 の砂化部と存在。
 上記の割れ目以外の粘土質と割れ目の一部は増幅(2.5R)。また
 硬く「2」の割れ目一部は増幅する。

72.93 ~ 73.11 m : 2.5R「2」割れ目は 厚さ10%の硬く「2」の
 粘土質の砂化部

73.11 ~ 73.38 m : C/L
 一部の硬く「2」の割れ目を含む。全体の粘土質の砂化部
 硬く「2」の割れ目。
 密着度の低い割れ目の中層に粘土質の砂化部と粘土質の砂化部
 分布する。

73.38 ~ 73.48 m : 2.5R「2」の割れ目は 軟化部と厚さ
 1~3%の粘土質の砂化部と存在。

73.48 ~ 74.04 m : 2.5R「2」割れ目は 厚さ10%の硬く「2」の
 粘土質の砂化部と存在。

74.04 ~ 74.48 m : 2.5R「2」割れ目は 粘土質の砂化部と粘土質の砂化部
 と粘土質の砂化部の割れ目と存在する。

74.48 ~ 75.00 m : 硬く「2」の割れ目は 粘土質の砂化部
 の割れ目と存在する。

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (75 ~ 80)

観察日

H27
7/29 8/27

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 75 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
	05				✓	✓	✓	✓	3				
	76									✓	7		
	76.23												
	05		Gp		✓	✓	✓	✓	3				
	76.59				✗	✗	✗	✗	4				
	76.65												
	77									✓	2		
	05												
	78				✓	✓	✓	✓	3				
	05												
	79		Gp		✗	✗	✗	✗	4				
	79.15												
	05				✓	✓	✓	✓	4				
	80									✓	4		

25.05 ~ 25.56 m 割れ目の一部に幅1/2の白色軟質粘土
の脈状に付着する。

25.46 m 0.5 ~ 0.7 m の硬質部が斜交の割れ目にて連続し、
粘土質の劣化は伴わない。

25.80 ~ 25.87 m 2742-3311 時に取れた 10% 前後の
深状の代わり。

26.11 ~ 26.23 m 10-20° の高角割れ目が多い。一部は白色
粘土 (幅 0.5%) に付着。

26.23 ~ 26.59 m : D
26.41 m 以下は 3-5 mm の片状の粘土質の付着。
26.41 m 以下は大部分が片状の粘土質 (20%)、10割目部にて
200° の球状に分布する。

26.59 ~ 26.65 m : 破砕帯 (主断面 26/59 m)
26.59 m : Hc-1
47° の上下端部に連続的に連続。41% の石英と 2% の
以下) の石英粘土 (0.2%)、色調は明黄褐色 (25YR 7/3)。厚 1 mm
26.59 ~ 26.65 m : Hb
上端 47°、下端 55° の時に連続的に連続。200 粘結は黒色粘土
41% の石英、43-10% の粘土に 20-30% 含む
軟質の「石英粘土」を呈し、主断面 (Hb) とは平行な軸の割れ目
目 0.5 mm 分布。色調は灰白 (2.5YR 7/3) ~ 灰白 (2.5YR 7/3) 厚 40
~ 50 mm
26.65 ~ 26.69 m : HJ
上端 55°、下端 37° の時に連続的に連続。43-10% の石英 0 ~
粘土質の付着と付着部の粘土質の付着。「粘土質の付着」を呈し。
26.70 m と 26.78 m に主断面と平行な方向に 55°、33° の主
断面 (Hj) が分布。一部は 200° の球状に分布。
色調は 10-15% 程度 (2.5YR 7/4) ~ 灰白 (2.5YR 7/3) 厚 240% (27号)

26.69 ~ 29.15 m : C
破砕帯の下部に 200° の部分に硬さ 2 も含む
割れ目にて粘土質の付着に付着。特に破砕帯直下
26.89 ~ 27.00 m で粘土質の付着に付着。
割れ目は 200° の球状に分布する。一部は 300° の球状に分布する。
10-80° の高角系に主断面、急角度の低角割れ目が多い。
27.58 ~ 27.65 m 10% 前後の大型の石英結晶の付着。
27.71 ~ 27.77 m 4-10% の粘土質の付着に付着。
27.79 ~ 27.85 m 硬さ 2 硬化部。
28.05 m 以下は 200° の球状に分布する。

29.15 ~ 29.03 m : D
主断面に付着した粘土質の付着。割れ目にて付着。
一部は 45-20° 程度の硬さ 2 の付着に付着。
粘土質の付着と割れ目の一部は 300° の球状に分布する。
割れ目は 10-30° の高角系に主断面

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (80 ~ 85)

観察日

H27
7/29, 7/30

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 ポ (m)	深度 (m)	境界 亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長 POD	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
80	05											
81	05			2.5YR 7/2 明褐灰						0	5	
82	05		Gp	10YR 7/6 明黄褐	✓ c	✓ v	✓ E	♂	4	0	4	D
83	05			2.5YR 7/2 明褐灰						0	3	
84	05			10YR 7/6 明黄褐								
84	05			2.5YR 7/2 明褐灰						0	3	
85	05				✓ d	✓ v	✓ E	X		0	3	

・80.14 ~ 80.31 m 幅1%、52.10 ~ 20%の細粒状の200μの集積部。

・80.36 m 以降は、深2「E」部、片の、片間の粘土部が主。

・80.36 ~ 81.68 m 間は割れ目岩芯の一部の200μ法で割る。

・81.70 ~ 82.40 m 片間の差違の一部は風化・褐色化が認められる。

・81.90 ~ 82.40 m、片間の表面の200μ法で石英粒(石英斑晶)の集積が認められる。

・83.30 ~ 83.74 m には硬土「c」の硬質岩片が認められる。

・83.30 ~ 83.50 m : 片間の形状・粘土部が風化・褐色化が認められる。

・84.06 ~ 84.59 m 10~20割れ目程度に粘土・褐色化が認められ、「E」部が主。

・84.54 ~ 84.71 m 粘土部が粘土(20)。硬質岩片が主。片間が硬質、粘土部が明褐色(20)。

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (85 ~ 90)

観察日

4/27
7/29 7/30

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 p (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分						最大コア長	岩級区分	破砕度区分
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
05	85.03		GP	25YR 6/3 灰褐色	✓	✓	✓	✓	0	3	✓	C ₂
	85.61				X	X	X	0	3			
05	86.70		GP	25YR 5/1 褐灰	✓	✓	✓	✓	0	3	✓	D
	87.18				X	X	X	0	2			
05	87.18		GP	10YR 6/3 灰褐色	✓	✓	✓	✓	0	3	✓	D
	88.18				X	X	X	0	3			
05	89.00		GP	25YR 7/2 明褐灰	✓	✓	✓	✓	0	3	✓	D
	89.86				X	X	X	0	3			

85.03 ~ 85.61 m : C₂
一部は硬土「C」薄片を含むが、割れ目等には砂状化が認められる。
85.06 ~ 85.60 m 間は割れ目等には砂状化が認められる。
85.48 ~ 85.52 m 間は軽微な砂状化、淡緑灰色を呈する。
90.5 m 以下の微細な黄鉄鉱を伴う。

85.61 ~ 87.18 m : D
硬土「D」薄片と薄片間の粘土化・砂状化部が認められ、砂状化が著しい。

87.18 ~ 88.18 m : D
87.50 ~ 88.70 m : 40 ~ 50 割れ目等には硬土「C」の薄片が認められる。薄片中には細小な割れ目が多く、12 ~ 9 割れ目程度の砂状化が認められる。

88.18 ~ 89.00 m : D
87.18 ~ 89.00 m は、色風化による砂状化が認められる。割れ目等には硬土「C」の薄片と粘土化が認められる。割れ目等には砂状化が認められる。

89.00 ~ 89.86 m : D
89.00 ~ 89.14 m は、硬土相の薄片が認められる。硬土相の薄片に相対的な粘土化・砂状化部は、底層部に認められる。

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 90 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	05											
	91											
	05	91.25 91.43 91.44 91.51 91.54	Gp 25YR 7/2 明褐色		d	VI	E	E	3			
	92		Gp 25YR 1/3 に30%程		d	VI	E	E	3			
	05											
	93											
	05	93.25 93.66 93.86										
	94											
	05	94.25 94.31 94.43										
	95		25YR 6/2 灰褐色									
	05	94.21										

90.15 ~ 90.55 m 粘り状部と硬く主部の硬質部との境界部。一部に割れ目がある。

90.55 ~ 90.85 m 粘り状部

90.85 ~ 91.00 m 硬質部の中程部より、基盤の砂状部は構造時に流決しよりの推定あり。

91.35 ~ 91.54 m: 破砕帯 (主断面 91.44 m)

91.35 ~ 91.43 m: Hb
 上端20%に粘り状部、下端25%に流決部を連続。42~30%石英粒、中5~10%粘土質の砂状部片に30%程度含む軟質の「硬質粘土状」を呈す。色調は灰白(10R)〜灰黄緑(10YR 7/2) 厚さ200mm

91.43 ~ 91.44 m: Hc-1
 上端25%に粘り状部、下端10%に流決部を連続。41%石英粒に粘り状部(5%以下)を含む軟質粘土(10R)。色調は灰白(10R)。厚さ200mm

91.44 ~ 91.51 m: Hb
 上端25%、下端15%に粘り状部を連続。44%石英の硬質部片を30%程度含む少風化した軟質の「硬質粘土状」を呈す。色調は浅黄緑(10YR 6/3) 厚さ30~60mm

91.51 ~ 91.54 m: HJ
 上端10%に粘り状部、下端20%に流決部を連続。下端面と10%平行に20~30°割れ目と10%に20°傾斜の割れ目と5%に5%程度に破砕Dの岩片に粘り状部、粘り状部には軟質粘土を含む。全体は「粘土流り岩片状」を呈す。色調は灰黄緑(2.5YR 7/4) 厚さ20~25mm

91.54 ~ 93.05 m: D
 40%前後の「硬質D」岩片と粘り状部の粘土〜砂状部とを呈す。粘り状部は軟質粘土。92.00mに流決部を呈す。硬質部は砂状化部。

93.05 ~ 93.66 m: C
 20~30%割れ目と多量、割れ目には1~3%程度の砂状部〜粘土状部を呈す。

93.66 ~ 93.86 m: D
 上端20%割れ目と粘り状部、粘土と砂状部を呈す。

93.86 ~ 94.50 m: C
 40~70%に粘り状部と粘り状部を呈す。

94.93 m 流決部は硬く、94.43 m 流決部は硬く、主部の粘り状部。

94.25 ~ 94.31 m 10~20°割れ目と「粘り状部」を呈す。

94.43 m 粘り状部片自身は硬く、粘り状部の粘り状部は多量を含む。割れ目と10~20%程度の割れ目と粘り状部の小割れ目(20°)の割れ目一部は25°傾斜を呈す。

7/27

↑

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (100 ~ 105)

観察日

H27 7/29 7/30 8/29

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 100 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分						最大コア長	岩級区分	破砕度区分							
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質										
	100.36		Gp	25YR 5/3 灰褐色	✓c	✓V	D	Y	2										
	100.50																		
	101.45				25YR 5/2 灰褐色	✓b	✓IV	C	Y	2		✓0	✓5						
	101.78					✓c	✓V	D	δ	3									
	102.34					✓b	✓IV	C	Y	2									
	102.49					X	X	X	X	X									
	102.56					X	X	X	X	X									
	103.28				25YR 5/1 褐色	✓b	✓IV	B	Y	2		✓12	✓12						
	104.00					✓c	✓V	C	δ	2		✓0	✓8						
	104.28					✓b	✓IV	B	Y	2									
	105.00				✓b	✓III	B	β	2										

色調は明黄褐(11YR 5/6)、厚2.45m。
 99.56 ~ 99.57m: Hc-2
 20% 上下端に砂打にて連続、φ1.3m 9-部より砂打等にて
 風化した石英粒 10% 程度を含む半固結状粘土(砂打)。色調
 は灰白(2.5YR 5/6)、厚2.5 ~ 10m/m
 99.57 ~ 99.60m: HJ
 上端砂打にて、下端砂打にて連続。主断面と
 平行な数本の割れ目と、これに直交する割れ目とあり、95 ~
 20% に著明化、割れ目には粘土は30% 分布せず、砂打部は
 10% 分布。砂打の割れ目と直交する。20% 程度分布の黒、棕色色
 調の粘土(10YR 4/3)と、厚2.05m

99.60 ~ 101.70m: Cc
 上、下端に砂打にて、上部は硬さ「C」主体、下部側の
 101.45m 以下は砂打にて、変質が著明で、進んで「D」に著明化。
 100.00 ~ 101.00m、上部層の砂打、割れ目と著明に著
 明化。砂打開口割れ目と著明化あり。

101.45 ~ 101.70m 層 1 ~ 2% 白色 ~ 黄色粘土の脈状分布
 あり

101.70 ~ 104.28m: Cm
 上端に砂打にて 101.70 ~ 102.56m 層は硬さ「C」、102.56m
 以下は硬さ「B」に著明化あり。
 割れ目線状物の分布は少ないが、上端に硬さ「C」部分
 あり。割れ目には砂打にて進んで著明化あり。
 102.56m 以下の硬さ「B」の砂打は、砂打の厚さには
 幅、2 ~ 3% の白色筋状の分布割れ目と多く分布するが、
 1/2 - の砂打にて合流しない。
 割れ目と著明に著明化部分認められ、一部は厚さ
 2 ~ 3% の砂打と著明化部分と著明化あり。

103.28m、103.48m の砂打は 55% 割れ目は著明に著明に
 あり(変位不明)、前者の厚さ 2 ~ 3%、後者の厚さ 2 ~ 3% 程度
 の砂打は著明、22% 分布あり。

103.94 ~ 104.00m 層は著明に著明化(軟化)あり

104.28 ~ 105.00m: Ch
 堅硬な塊状
 一部に著明に著明化(砂打の砂打)と分布するが、著明度
 の高、1/2 - の砂打にて合流しない。

105.44

調査名

孔番・深度

H29 B-3 (105 ~ 110)

観察日

11/27
7/30 1/3

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 105 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
	105.19		褐灰	2.5YR 5/1 褐灰								
05	105.79 105.80			2.5YR 5/1 褐灰	✓b	✓Ⅲ	✓B	β	2		✓C4	
106	106.29		Gp	2.5YR 7/3 橙	✓b	✓Ⅳ	✓C			✓31	✓18	
05	106.60			2.5YR 7/3 橙	X	X						
107	107.32		Gp	2.5YR 6/1 褐灰	✓b	✓Ⅳ	✓B	Y	2	✓10	✓10	✓C4
05	107.61			2.5YR 6/1 褐灰								
108	108.21		Gp	2.5YR 7/2 明褐灰						✓0	✓7	
05	108.63 108.71			2.5YR 7/2 明褐灰	X	X	X					
109	109.27		Gp	2.5YR 6/1 褐灰	✓b	✓Ⅲ	✓B	β	2	✓10	✓10	✓C4
05				2.5YR 6/1 褐灰								
110										✓25	✓15	

105.16 ~ 105.19 m: 割れ目により風化は薄く結石化は少ない。酸化は伴わない。

105.33 ~ 105.52: 割れ目により軽微にマンガン結染あり。

105.80 ~ 106.21 m: CM
 割れ目は堅硬であるが、全体に割れ目により風化は結石化部、中層部は多く、その結石化は風化のハニシ層で合流し、結石化は多い。風化は風化部が多い。
 一部は割れ目の結石化の薄層はあり、存在物がない。割れ目が主である。

106.32 ~ 106.60 m: 中層部は約10%の間隔で密に分布。全体に結石化部、一部は割れ目は結石化部が多い。

107.30 m 以下は約2-3%の結石化部と結石化部は暗緑色斑状点の存在する。
 割れ目の面は結石化部は多い。

107.60 ~ 108.60 m: 約10%の大型の結石化部は多い。

108.60 ~ 108.71 m: 割れ目により結石化部。

108.71 ~ 112.27 m: C4
 堅硬・塊状
 白筋状の中層部は多い。大半は周囲と同様に、結石化部は多い。ハニシ層は合流し、結石化部は多い。
 割れ目には存在物は分布しない。
 割れ目には結石化部は結石化部は多い。

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (110 ~ 115)

観察日

H27
7/30 7/31

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 110 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				変質
05												
111					✓ b	✓ III	✓ B	β	2	✓ 25	✓ 15	✓ CH
05												
112			GP	2.5YR 6/1 褐灰						✓ 12	✓ 12	
	112.27				X	X	X	X				
05					✓ b	✓ IV	✓ B	β	2			✓ CM
113									✓ 20	✓ 10		
	113.27				X	X	✓ Y	X				
05												
114					✓ b	✓ III	✓ B	β	2	✓ 22	✓ 20	✓ CH
05												
	114.68					X	X	X				
115					✓ c	✓ IV	✓ B	γ	2	✓ 40	✓ 22	✓ CM

110.30 ~ 110.95m, 50~60°と北に近交する斜交層 10~50°
割れ目が多く割れ目が多い。中層割れ目は密着度が高い。
両端割れ目は後者割れ目の一部と見られる。

111.14m, 70°割れ目11/層2, 12/層 緑灰色粘土質 E層と見られ、
12/層の割れ目が特に粗い点がある。

111.3/ ~ 111.34m, 割れ目には薄く褐色・褐色化が。

112.00 ~ 112.27m, 70~80°と北に近交する 20~30°の
中層割れ目と約10%の割れ目と密着する。密着度の
高くハリの層が分離・粗粒化する。

112.27 ~ 113.27 m : CM
堅硬で約5°下層に比べ、割れ目も少なく
中層割れ目も少ない。上層の112.27 ~ 112.32m E層と見られ、密
着度が高い。
割れ目には浸透物は分布せず、外面も未風化・新鮮な割
れ目と見られる。一部の割れ目で緑灰色の層に1/2程度
の褐色化と見られる。

113.27 ~ 114.68 m : CH
堅硬、塊状
割れ目は約50° ~ 70~80°の高角度系と見られ、中層割れ
目は同傾向で密着度が高い。

114.24m, 80°の中層割れ目E層と約3%の暗緑灰色の緑灰色の
点状が。
114.40m 以上の中層割れ目一部は薄く浸透褐色化が、酸化
粘土質の褐色化は伴わない。

114.68 ~ 115.12 m : CM
70~80°割れ目も少なく、約55°, 114.69 ~ 115.12m 層は上層
厚25%, 下層30%と浸透褐色化と伴う。

115.12

調査名		孔番・深度		観察日									
		H-7 B-3 (120 ~ 125)		H27 7/30 7/4 9/									
標尺 (120 m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
	120.10				✓	✓	β	δ	3		C2V		<p>117~120 = P1 新成</p> <p>上端 60° 直線的に、下端 40° の波打て連続。主として面と 120° 平行に 2~4mm 程度の割れ目 2~5mm に細片化。割れ 間の一部は幅 1mm 程度の粘土細片が分布。全体は 粘土質の片状に呈する。色調は暗緑灰 (109 41)、 厚さ 40μm</p> <p>119.25 ~ 120.10 m : C2 片状に全体が細片化。20° の深部層の一部に塊状。 割れ目厚 2~4mm の粘土質・粘土質の片状に呈する。 下部の 120.02 ~ 120.07 m は割れ目に片状化進む。 120.09 ~ 120.10、60° 厚さ 10~15μm 程度の片状に呈する。 (20°)</p> <p>120.10 ~ 125.90 m : C4 堅硬、塊状。 割れ目状に分布せず。面は未風化・新鮮。 長石の白濁化は認められず。</p> <p>121.60 : 4層割れ目の1層の割れ目に付く。</p> <p>122.36 m、60° 割れ目の一部に黄白色の結晶。 122.61 m、60° 割れ目厚さ 2mm の粘土質に呈する。</p> <p>123.63 ~ 123.67 m 割れ目に片状化した 20° 新鮮な 硬質で、その粘土化や腐化は伴わない。</p>
05										64	31		
121													
05										74	23		
122			Gp ✓	25PR 6/1 粘灰 ✓	✓	III	β	β	2			C4 ✓	
05													
123										76	21		
05													
124										88	26		
05													
125										47	20		

調査名

孔番・深度

H-7 B-3 (130 ~ 135)

観察日

127
1/31 9/ 9/9

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 130 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化 変質			
	05	130.57		2.5YR 6/2 灰褐	✓ c	✓ B	✓ γ	2		C ₂ ✓	<p>70°±端色線の下端が連続して連続、φ1~3mm石炭粒、中2~3mm 骨片は10~20%含む粘質粘土(砂質)。色調は緑圧(10G5F)、厚さ2~5mmの一部厚さ0.5~1mmの片状部あり。</p> <p>129.95~129.91: H₁ 上端70°±端色線、下端60~70°±端色線に連続、φ2~5% 粘質片状化、片状部は粘土~砂状化部。粘量は他のH₁コア より多い。全体時に「粘土質片状」を呈す。 色調は利→灰色を帯びた灰白(10Y7/1)。厚さ25~35mm</p> <p>129.91~130.57 m: C₂ 粘質片状化の高度部、中層部は0°~20°前後 の分布、片状部は粘質部より 粘質部は薄く砂状化が認められる。</p> <p>130.57~131.27 m: CM 粘質部の中層部は粘質部より粘質部は粘質部 粘質部は粘質部より粘質部は粘質部</p> <p>131.27~132.41 m: CH 塊状、塊状の粘質部 粘質部の中層部は粘質部より粘質部は粘質部 粘質部は粘質部より粘質部は粘質部</p> <p>132.41~134.33 m: CM 粘質部の中層部は粘質部より粘質部は粘質部 粘質部は粘質部より粘質部は粘質部</p> <p>134.33~139.66 m: CH 塊状、塊状の粘質部 粘質部の中層部は粘質部より粘質部は粘質部 粘質部は粘質部より粘質部は粘質部</p>
	13	131.20 131.27			✓ b	✓ IV	✓ B	3 24 14		C _M ✓	
	05	131.60		5GY 7/1 灰	X	X	X				
	132	132.41	Gp	2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ III	✓ B	β	2	C _H ✓	
	05				X	X	X				
	135	133.39			✓ b	✓ IV	✓ B	β	2	C _M ✓	
	05	133.95		5GY 7/1 灰	X	X	X				
	134	134.33		2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ III	✓ B	β	2	C _H ✓	
	05	134.36 134.70		5GY 7/1 灰	X	X	X				
	135	134.92		2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ III	✓ B	β	2	C _H ✓	
				2.5YR 7/2 灰	X	X	X				

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (135 ~ 140)

観察日

H27
7/31, 9/

基盤岩コア観察カード

記事・破碎性状・詳細スケッチ等

標尺 135 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破碎度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				変質
	0.5	135.65		2.5YR 7/2 明褐灰					28	16	<p>134.85 m 以降は 20% に 90% 前後で 褐色の 長石が 多量に 出ている。</p> <p>135.76 m. 80 割れ目は 全長 割れ目 変質部 割れ目の 一部に 加えて 50 (5) と 評価した。</p> <p>136.07 m. 60°, 136.33 m. 65°, 136.56 m. 60° 前二者 は 厚さ 1 ~ 2 mm の 緑泥石 層。後者は 石英 層の 断面に 分布。粘土化 対称化 両方 評価した。</p>	
136	0.5								58	29		
137	0.5		Gp	2.5YR 7/2 灰褐	b	III	B	β	2		CH	<p>137.52 ~ 137.62 m. 晶洞中に 石英。褐色の 長石。 緑泥石 層の 断面に 出ている。</p>
138	0.5								71	15	<p>138.35 m. 138.50 m. 中層 割れ目 60° 100% 割れ目化 (20%)。</p>	
139	0.5	139.02 139.21		2.5YR 6/1 緑灰					72	27	<p>139.02 ~ 139.21 m. 緑泥石 層 (2) 緑泥色化 (2)。</p> <p>139.27 m. 70° 厚さ 2 ~ 3 mm 厚さ 緑泥石 層と 石英 層の 断面に 分布。中層 割れ目 60° 割れ目 変質部 両方 評価した。</p>	
		139.66		2.5YR 4/2 灰褐							CM	<p>139.66 ~ 139.96 m : CM 割れ目 60° 100% 割れ目。 断面は 分布した。</p>
140		139.96							52	52	CHV	<p>139.96 ~ 140.39 m : CH</p>
		140.00										

調査名

孔番・深度

H-7 B-3 (140 ~ 145)

観察日

H27
7/21/97

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 140 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				RQD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分	観察内容	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化						変質
141	140.00		Gp	2.5GY 緑灰	✓ b	✓ III	✓ B	β	2		CH		140.13 m. 650割目と200割目の割れ目あり。風化の富化体あり。	
	140.75													
	140.59					X	X	X	X	X				140.39 ~ 140.61 m: CM 20割目と10割目の割れ目あり。コア割れ目には砂子あり。
	140.81	0.5			2.5YR 7/2 黄褐色	X	X	X	X	X				140.61 ~ 140.97 m: CH 変質・塊状 一部で中層割目があり。密度が高く周囲と同化し、1.2-1.9割目の割れ目あり。細粒化あり。
										34	13			
142	141.70	0.5			✓ b	✓ III	✓ B	β	2		CH		141.40 ~ 142.00 m. 420割目の割れ目と5割目の割れ目に緑泥石化の浸染部あり。	
	141.97				X	X	X	X	X				141.70 m. 420割目の割れ目と5割目の割れ目あり。	
	142.08			2.0YR 7/2 黄褐色	X	X	X	X	X	98	16		141.97 ~ 142.08 m: CM 420割目と5割目の割れ目は浸染。 色の前記と異なり中層割目と5割目の割れ目と密度が高く、一部では割れ目割れ目と化している。	
	142.43	0.5			✓ b	✓ IV	✓ B	β	2		CM		142.32 ~ 142.43 m. 割れ目の浸染と420-50割目の割れ目に割れ目と5割目の割れ目と化している。	
										14	14		142.70 ~ 142.76 m. 緑泥石化と浸染の色とあり。	
143	143.03			2.5GY 7/2 緑灰	✓ b	✓ IV	✓ B	β	2		CM		143.48 ~ 144.50 m. 420割目の割れ目と5割目の割れ目と化している。上下の割れ目と多量にあり、割れ目の一部は50-60割目の割れ目と5割目の割れ目と化している。中層割れ目と5割目の割れ目と化している。 (浸染部あり)	
	143.31	0.5												
	143.60			2.5YR 7/2 黄褐色						30	10		143.60 ~ 144.00 m. 割れ目の浸染と20-70割目の割れ目と45割目の割れ目と化している。1割目の割れ目と化している。	
	144.00	0.5											144.61 ~ 144.68 m. 20-55割目の中層割れ目と5割目の割れ目と化している。	
	145									0	8			

調査名

孔番・深度

147 B-3 (145 ~ 150)

観察日

147
7/1/91

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 145 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分		
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				変質	ROD
	0.5												
146				2.5YR 6/2 灰褐	✓ b	✓ IV	✓ B	β	2	✓ 32	✓ 11	CM	<p>145.37 ~ 50割目目には厚さ15%の2~10%の細片状の新鮮な硬質、切片状には含まない。</p> <p>146.08 ~ 50割目目には厚さ約10%の緑泥石化、碎砕色を呈する。</p>
	0.5												
147	147.08		Gp		X	X	X	X		✓ 13	✓ 13		<p>146.56 ~ 147.08 ~ 60~70%の軟弱、割目目には分粒、同割目目化Lena。若割目目は1%の細片、新鮮な軟在物は分布する。</p> <p>147.08 ~ 150.59 m : CH</p> <p>堅硬・塊状 同割目目は粘土と6割目目の同割目目、粘質(2割)の軟弱割目目は周囲と同化(粘着度が高く、1割目目の粘着性も高くなる)。</p> <p>各割目目には1%の軟在物は分布せず、相対的に新鮮。</p>
	0.5												
148					✓ b	✓ II	✓ B	β	2	✓ 37	✓ 25	CH	
	0.5												
149										✓ 62	✓ 22		<p>148.98 m 65割目目には厚さ1%の緑泥石化、同割目目には含まない。</p> <p>149.20 ~ 149.36 m 割目目には厚さ約1%の粘着性相対的に新鮮。</p>
	0.5			2.5YR 6/5 Rd 褐									
150										✓ 32	✓ 11		

調査名

孔番・深度

H=7B-3 (150 ~ 155)

観察日

H27
7/31 9/8

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (50 m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの粗さ	風化 変質					
	0.5	150.59			b	III	B	β	2	39	15	CH	<p>150.04 ~ 150.59 m. 50 ~ 80° の 25% 以下の緑泥石細脈が分布。大半は周囲と同化し、同色同化している。</p> <p>150.41 ~ 150.59 m. 緑泥石細脈の中心部は 10% の石英 Eln 2 塊に厚く成る。</p> <p>150.59 ~ 151.57 m: CH 20 ~ 40° と 70 ~ 80° 割れ目の交差により、割れ目の幅が 5 ~ 20 μm。</p>
	1.5	151.21		254R 6/3 15.0in 幅	b	IV	B	β	2	39	15	CM	<p>151.21 m. 25° 割れ目の一部で厚さ 20% の石英細片化部が認められる。</p> <p>151.50 ~ 151.52 m. 石英と暗褐色鉱物の共生が認められる。</p>
	0.5	151.37										CH	<p>151.57 ~ 152.23 m: CH 堅硬、塊状</p> <p>割れ目の傾斜は 10 ~ 25% 程度に緑泥石化が認められ、中層割れ目の交差は密度が高く、12 ~ 17% の石英が認められ、細片化している。一部は同化している。石英の粒径は 10 ~ 20 μm。</p> <p>151.47 ~ 151.52 m. 緑泥石化と石英の交代が認められる。</p>
	0.5	152.23		2564 5/1 緑泥						25	15	CH	<p>152.23 ~ 153.85 m: B 堅硬塊状で割れ目は粗い。割れ目根在地は分布している。割れ目中層割れ目の一部は割れ目に緑泥石化が認められる。</p> <p>152.50 ~ 152.67 m. 12 度上下端に厚さ 10 ~ 20% の石英脈が認められ、石英の粒径は 20 ~ 40 μm の角形と稜角形と同様に認められる。</p>
	0.5	152.36										B	<p>152.50 ~ 152.67 m. 12 度上下端に厚さ 10 ~ 20% の石英脈が認められ、石英の粒径は 20 ~ 40 μm の角形と稜角形と同様に認められる。</p>
	0.5	152.76		2544 6/3 15.0in 幅	b	II	B	β	2	20	43	B	<p>153.20 m 付近に φ 10% の大型、褐色の角長石結晶が点在。</p> <p>153.25 ~ 153.60 m. 60 ~ 80° と高角の緑泥石の中層割れ目の数が多い。密度が高く、同化している。</p>
	0.5	153.25										CH	<p>153.85 ~ 154.60 m: CH 堅硬、塊状</p> <p>154.42 ~ 154.60 m は緑泥石化と進歩的硬質。上端には割れ目の交差が片状化が認められ、微細な石英結晶が認められる。石英の粒径は 10 ~ 20 μm。</p>
	0.5	153.85		2544 6/3 緑泥						95	36	CH	<p>154.42 ~ 154.60 m は緑泥石化と進歩的硬質。上端には割れ目の交差が片状化が認められ、微細な石英結晶が認められる。石英の粒径は 10 ~ 20 μm。</p>
	0.5	154.42		2564 6/3 15.0in 幅	b	II	B	β	2	43	21	B	<p>154.60 ~ 154.80 m: B 堅硬、塊状で割れ目がある。</p> <p>154.25 (以下) 厚さ 60 ~ 80° の高角の緑泥石の中層割れ目の数が多い。密度が高く、12 ~ 17% の石英が認められる。</p>
	0.5	154.60										B	<p>154.60 ~ 154.80 m: B 堅硬、塊状で割れ目がある。</p>
	0.5	154.80										B	<p>154.25 (以下) 厚さ 60 ~ 80° の高角の緑泥石の中層割れ目の数が多い。密度が高く、12 ~ 17% の石英が認められる。</p>

調査名		孔番・深度		観察日		H27 8/19							
標尺 155 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等		
				割れ目状態	コアの形状	コアの種さ	風化					変質	色調
156	0.5 156.18			✓ b	✓ II	✓ B	β	2	✓ 28	✓ 30	B	・156.25m: 70~80°割れ目の交差部一部が中層割れ目と一致する(意味不明)。 ・156.77~156.80m 一部に緑泥石化(φ30~40の斑状に緑泥石化部。軽微に伴った)。	
157	0.5 157.18		Gp	25YR 4/3 暗緑灰	✓ b	✓ III	✓ B	β	2	✓ 28	✓ 16	CH	156.18~159.24m: CH 粗粒、塊状。一部は長さ20cm以上の柱状に膨らんだφ長さ10~20cm(III)の主部。 割れ目中 中層割れ目の一部は緑泥石化部と一致する。 ・156.50~156.90m 割れ目の交差部一部に片状に付いた挿入物分布(含む)。 ・157.00m 以下は 20~40°割れ目の主部。 ・157.35~157.89m 中層割れ目の石基も緑泥石化し、緑泥化を帯びる。 ・157.83~157.89m 30°程度のφ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石の弱い配列性E702点に付く。 ・158.20~158.30m φ10mm前後の大型を以て長石が点状。 ・158.54mと158.62mに70~80°厚1~2mmの石英帯にて緑泥石化部分布。点状(分離しない)。 ・158.54m以下は石基も中の緑泥石化の進行暗緑灰色を呈する。軽微に伴った。暗緑色を帯びる。
158	0.5 158.54			25YR 4/1 暗緑灰	✓ b	✓ II	✓ B	β	2	✓ 53	✓ 26		
159	0.5 159.24				✗	✗	✗	✗	✓ 61	✓ 32	B	・159.24~160.40m: B 粗粒、塊状の割れ目が多い。 緑泥石化は割れ目の中層割れ目と一致するが暗緑色の帯は高層、ハミの割れ目と分離しない。 割れ目挿入物の分布(含む)。 全体は緑泥石化の進行暗緑灰色の主部を帯びる。緑泥石化の弱い部分は石英の塊状の挿入。全体の色調は暗緑色を帯びる。	
160									✓ 93	✓ 52			

160.32 160.22

調査名		孔番・深度		観察日								
		H27B-3 (170 ~ 175)		H27 8/18/3								
標尺 170 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	0.5	172.24 (274.65)		2.5YR 5/2 灰褐								・169.67 ~ 170.22 m. ϕ 2 ~ 3 μ m の暗緑灰色緑泥石 + 斑点状に多量に晶出。 ・170.20 ~ 170.65 m. 60 ~ 70° の中層割れ目 + 数本分布の「密着度」が高く、ハズレの塩析を含む。
	0.5	171.75		2.5YR 5/1 褐灰					91	77		・171.00 ~ 171.08 m. ϕ 10 μ m の大型の橙色の斜晶石の晶出。点状。
	0.5	171.29		2.5YR 5/2 灰褐	b	II	B	β	2		B	・171.29 m. 割れ目 + 交差部 + 交差部同色の片状化。
	0.5	172.05	Gp	2.5YR 5/2 灰褐	b	II	B	β	2		B	・172.05 m. 割れ目 + 交差部 + 交差部同色の片状化。
	0.5	172.32		2.5YR 5/2 灰褐	b	II	B	β	2		B	・172.32 ~ 172.53 m. ϕ 2 ~ 3 μ m の暗緑色の緑泥石 + ϕ 0.5 ~ 1 μ m の石英細粒を伴って、斑点状に晶出。点状。
	0.5	172.69		2.5YR 5/2 灰褐	b	II	B	β	2		B	
	0.5	172.86		2.5YR 5/2 灰褐	b	II	B	β	2		B	172.89 ~ 174.13 m: CH ^{長柱状} 堅硬、塊状 + コア長 20cm 以上の「長柱状」 + 10 ~ 20cm の柱状コア主体。 一部に緑泥石化し、割れ目中層割れ目 + 交差部 + 交差部同色の片状化に晶出した。割れ目面 + 塩析 + 石英は含まれない。細粒部には石英が伴っている。
	0.5	173.83		2.5YR 5/3 灰褐	b	III	B	β	2		CH	・173.66 ~ 174.73 m. 密着度の低い中層割れ目 10 ~ 20 μ m 間隔で分布。ハズレの塩析 + 細粒 + 細片状の石英 + 石英の塊状分布を含む。
	0.5	174.13		2.5YR 5/1 褐灰	b	II	B	β	2		B	・173.93 m. 43° 割れ目は ϕ 5 μ m の橙色の斜晶石を伴っている。
	0.5	174.13 ~ 175.55		2.5YR 5/1 褐灰	b	II	B	β	2		B	174.13 ~ 175.55 m: B 堅硬、塊状 + 一部の割れ目 + 交差部 + 交差部同色の片状化に晶出した。コア長 20cm 以上の長柱状コア主体。 一部に白色の筋状の中層割れ目を含む。密着度は高く、ハズレの塩析を含む。 上位側には「緑泥石化」が伴っている。
	0.5	175		2.5YR 5/1 褐灰	b	II	B	β	2		B	

調査名		孔番・深度		観察日									
		H27 B-3 (175 ~ 180)		H27 8/1 8/3									
標尺 175 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
	05	175.35		25YR 6/1 褐灰	✓ b	✓ II	✓ B	✓ β	2		B [✓]	175.15 ~ 175.22 m: 割れ目・変質・片状化の程度は 27頁の割れ目面には塊状物は分布しない。	
	05	176.50			X	X	X	X				175.55 ~ 176.50 m: CH 堅硬、上下位は比→D割れ目が多→D層10cm~20cm (Ⅲ)の比率。中層割れ目の割合が大半は密着度が高く ハ2の打撃で分離しない。	
176	05	176.78			✓ b	✓ III	✓ B	✓ β	2	✓ 43	✓ 20	C [✓] _H	175.45 ~ 175.71 m: 片状化の程度はD層より上層に片状 化しにくい。割れ目は堅硬で塊状物は分布しない。 面の一部は赤褐色に、部分的に鉄質の斑紋がある。 赤褐色部分は鉄質の斑紋による可能性がある。
	05	176.78		25Y 7/1 灰白	X	X	X	X				175.71 ~ 176.78 m: CM 割れ目・変質・塊状物・一部片状化は多い。 175.59 ~ 175.62 mは30割れ目(Ⅲ)の層(D)、砂状 粘土状部は123層に。	
177	05		Gp [✓]		X	X	X	X		✓ 37	✓ 14	C [✓] _M	176.78 ~ 179.15 m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の層はD層主体。 一部に合層の層割れ目の密着度が高く、ハ2の打撃で 分離しない。 上位はD層泥状化の程度、+2~5%暗緑灰色斑状点状 厚さ0.5%の層状に分布する。細粒の物は大半が周囲に 密集し、均一に分布する。
	05			25YR 6/1 褐灰	✓ b	✓ II	✓ B	✓ β	2			B [✓]	177.65 m: 35%厚さ2~3%の石炭層が分布。周囲は同じ色。
178	05									✓ 79	✓ 49		177.03 ~ 178.27 m: 同層は5~10%と大型の褐色の 長石の結晶・点状物。
	05												178.31 ~ 178.39 m: 上層75%、下層70%割れ目に同層は 10%に細粒化している。厚さ0.25%の鉄質斑状物分布 する。上層面には緑泥石の斑状物に付着している。
	05												178.45 m以下は中層割れ目0.5%。密着度が高く、ハ2 打撃で分離しない。
179	05	179.75			X	X	X	X		✓ 71	✓ 33		179.15 ~ 180.00 m: C _H 179.37 ~ 179.60 mの一部は割れ目変質部で片状化の 層は堅硬で面は赤褐色・未変質で塊状物も分布しない。 一部はD層に緑泥石の斑状物に付着する程度。 中層割れ目の多くはD層に同層割れ目化している。
180	05	180.00			✓ b	✓ III	✓ B	✓ β	2	✓ 43	✓ 15	C [✓] _H	(2) (7区)

H27-B-4

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日				
		H27B-4		7/5 7/6				
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-		地質名	色調	堆積構造・特徴等
				火山灰物 土具片	化石			
0	0.22			○	○	砕石	10R 3/4 黒	φ5~50mmの角礫より成る。若種は砂質頁岩。
1						礫 泥 じり砂(盛土)	10R 3/4 明 黄 褐	φ2~20mm程度の礫(角礫+圭田礫)を含む。 ~φ140mm 基質は褐色時に帯びた堆砂が主体。 φ.22~1.00m間は比較的礫分に着目。 総じて密くコアは指圧で容易に凹む。
2						砂質礫(盛土)	10R 3/4 明 黄 褐	礫分が多くなる。礫種は花崗岩類、アーク その他黒石の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる。 φ10~100mmの角礫~圭田礫が多い。 3.30~3.58mコンクリート片 3.70~4.00mこの間基質は流失済み。
3	3.10					砂質礫(盛土)	10R 3/4 明 黄 褐	
4								

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番	H27B-4	観察日	7/6		
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ 火山灰物 土質礫石 貝化石 木片	地質名	色調	堆積構造・特徴等
4.00							4.00~5.00 花崗岩、花崗斑岩、アプライト等の花崗岩類の礫も多く含む。地、呈灰色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫は正角礫が主体で礫径は ϕ 10~50mmが多く max ϕ 90mm 基質は細砂+粗砂。
5					砂質礫(盛土)	明黄	5.00~6.00 基質はセキ流土。
6	6.30				砂質土(盛土)	黄	6.30~7.00 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類の ϕ 5~20mmの角礫を含む。並外れて少量の ϕ 10mm以下の更なる角礫を含む。上位の盛土に較べて、よく砕けている。
7	7.00				礫(盛土)	5YR 7/1 黄	7.00~7.45 Apの巨礫。頁岩の破片を含む。
	7.45				砂質土(盛土)	10YR 7/2 黄	7.45~7.70 礫・正角礫を含む砂(粗砂)
	7.70				砂質土(盛土)	黄	7.70~8.00 花崗岩類の細~中礫が主体。粘、石粗砂を含む。
8	8.00						

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名				孔番	H24B-4	観察日	%
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	地質名	色調	堆積構造・特徴等	
			マーカー 火山灰物 土質化石 貝片 木				
8.00	8	8.20		砂 質 土 (盛)	明 黄 褐	8.00~8.20 砂(粗砂)が主位となる。 8.20~ 花崗名類のφ10~50mmの角~角角礫が主位。下層に礫はApが主目立ち、maxφ90mm。 少量の黒灰色の頁岩礫が散在した。	
9							
10		木片				10.5mに等分炭化した長さ100mmの木片を含む。	
11						11.03~11.05 含有礫は総じて小さく中礫以下。	
12							

スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
 境界 明瞭—— 不明瞭----- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名

孔番・深度

H27B-4 (13.25 ~ 15.00)

観察日

1/6

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
13			盛土									
	13.35		↑									
14	14.00		GP	10YR 7/3 に 3.5 い 黄 橙	0	0	0	0	0	0	0	
	14.67											
15	15.00											

盛土
↑

13.25 ~ 14.67 風化が著しく割れ目の多くは不鮮明とほり

14.24 付近 割れ目に沿ってマンガン等の浸染が顕著

14.50 付近 頁岩破片、上部からの崩壊物と思われる

14.67 ~ 同には若干軽微なほう割れ目ありとほり
が認識できるときは割れ目、軟質で脆し、割れ目に沿って薄く変質脈が有ると思われるものがある。

調査名

孔番・深度

127B-4 (15~20)

観察日

3/9

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等		
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ					風化	変質
15	15.15		GP	5YR 7/3 6.00 橙							15.00~15.09 低角度の割れ目が優勢。同化により 割れ目沿いの劣化。若干シルト状の細粒物が見られる。 コアも取厚である。 15.52~15.60 礫状コア。多くは上部からの崩壊物と見られる。 15.60~15.91 割れ目沿いの劣化著しく脆弱		
	15.66			2.5YR 7/4 15.66 10YR 7/6 明黄橙	C	V	D		CL				
	15.91	15.89		0.5YR 6/3 15.91 赤 者	d	π	V	E	8	3		D	15.91~16.36 礫砕帯である。全体にコンクリートが埋め込まれている。 15.91m 上盤 72% 緑灰色の粘土がやや湾曲したものが厚さ 2cm程度で見られる。 16.36~16.52 下盤 26% 灰白色の普通粘土が厚さ2.5cm程度 生じている。 16.52~16.59 上盤の破砕帯と同化の影響で劣化が著しい。 16.59~17.03 割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる。 17.03~17.86 低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見 られ、コアも取厚で表面はサツク。
	16.52	16.49		10YR 8/6 16.49 黄 橙									
16	17.66		GP	9.5YR 8/4 17.66 浅 黄 橙	C	V					17.86~18.00 コア表面のサツキは極分程度。 18.00~19.00 低角度の微細な割れ目が非常に多い。 18.52~20.00 斜層石の同化現象と見られ、互に柱状の大型 の球状物が目立つ。 19.59~19.76 礫状コアが主体となる。		
	19.23			18.52									
	18.85			18.85									
	19.08			19.08									
17	19.57		GP	19.57									
	19.76			19.76									
	19.97			19.97									
	20			20									

調査名		孔番・深度		観察日							
		H27B-U (25 ~ 30)		1/10							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの傾き				
25			流矢								
	25.48										
26	25.76			淡橙		C	6	3			25.76 ~ 26.19 コアは軟層で表層のガラツキのせいで
	26.19										
	26.30										26.00 ~ 26.40 割れ目35度の傾斜が明確、コアも同じの取 層である
	26.48										
27	26.96										26.76 ~ 27.22 軟層が軟層で脆弱である
	27.22		GP								27.22 崩断性の割れ目、変質もわかり上盤側1枚 斜交角で幅20cm程度、角度40° N7E, 68W
	27.38										
	27.80										27.85 ~ 28.00 崩断性の割れ目が局所的に集中し脆弱 である
28	28.24										28.24 低角度で幅10cm程度の傾斜がある、上下盤45° -7°
	28.55										
29	29.25										29.48 ~ 29.91 微細な割れ目が集中し、このコアは取 層である。29.59 ~ 29.60 微細な割れ目1枚で上盤に 29.60 ~ 29.90 崩断性の割れ目が卓越する。
	29.48										29.04 ~ 29.78 微小規模の破砕帯、上盤70°自角付上盤 下盤67°マニカン35度顕著、上盤側は傾斜角で一部で変 質を伴う。
	29.59										
30	30.00										

調査名

孔番・深度

H27B-4 (30 ~ 35)

観察日

7/11

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化			
30	30.03			5YR 7/4		✓					<p>30.10 ~ 30.69 低角度の割れ目が優勢である。</p> <p>30.62 ~ 30.82 20 間、不規則な形状の高角度の割れ目が2条見られ、マカマカが3~5cmの間隔で析出している。</p>
	30.29										
	31			10 5 い ✓ 橙		✓			36 13		
	31.97										
	31.93					✓					
	32					✓					
	32.34					✓			12 12		
32.46					✓						
32.67					✓						
32.80					✓						
33											<p>32.22 ~ 32.93 中低角度の微細な割れ目がほぼ平行に密集する。</p> <p>32.82 ~ 32.91 節理を伴う土盤45° 暗緑灰色の粘土〜シルト3mm程度、下盤40°、上盤の間はやや緑色味土帯の軟層である。</p> <p>32.26 ~ 32.39 50~90°程度の節理の節理が平行して集中する。</p> <p>32.68 ~ 32.82 30°程度の節理がほぼ平行して集中する。緑色の薄層が3条見られる。</p>
	33.61										
	34								22 10		
34	34.00			5YR 7/4		✓					<p>34.30 ~ 34.42 割れ目が集中し層〜岩片状コアとなる。人為的?</p> <p>34.36 付近、有新的(垂直)に低角度で破砕された組織状となる。</p>
	34.11										
	34.42			10 5 い ✓ 橙		✓			27 17		
	34.65					✓					
	34.79					✓					
35											

調査名

孔番・深度

H27B-4 (40~45)

観察日

7/11

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分			最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ			
40	40.11			25Y7/4	▽					
	40.58			浅黄	▽					
	40.64			40.68	▽					
	40.83			5YR7/4	▽					
	41.20				▽					
	41.37				▽					
	41.47				▽					
	41.57				▽					
	41.80				▽					
	41.91				▽					
42	42.12		GP	35	▽					
	42.25			い	▽					
	42.35			橙	▽					
	42.64				▽					
	43.05				▽					
	43.75				▽					
43	43.54				▽					
	43.65				▽					
	43.80				▽					
	43.85				▽					
44	43.21				▽					
	43.55				▽					
	43.85				▽					
45					▽					
					▽					

40.64~40.83 斜小目が卓越し、斜小目沿いの劣化が明瞭。砂~粗粒となる斜小目が多い。斜小目沿いに変厚している。

40.91~41.00 斜小目沿い劣化、粗粒状となる。

41.00~41.20 但角度と高角度の斜小目が交叉し、扁平状となる。斜小目沿いの劣化が見られるものが多い。

41.30~41.47 ほぼ平行の斜小目が集中、斜小目沿いの劣化が明瞭で脆弱。

41.80~41.91 斜小目沿いの劣化が顕著で粘着性脆弱である。

42.12~42.25 斜小目に沿って劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土がC。粘厚なし。

42.35 25°の斜小目に厚さ2~3mmのマンガン様存在。
42.38~42.46 局所的に固結した砂に岩片が混入。褐色汚染と明瞭。

43.05 節断破砕をこの規模に受ける。角度32°幅10mm。土質は石英脈を伴う。下盤は粘土2mm。
43.06~43.15 岩片状コア(人差し指ほどの長さ)

43.44~43.65 変厚及び同化の劣化脆弱となる。43.63 白色の膏層状。粘土化しているのが軟質。

43.80~43.91 但角度の斜小目が卓越し、コアも軟質となる。表面はサラツク。

44.46 42°の斜小目に沿って褐色汚染顕。周辺には絹雲母と白金鉱(黄鉄鉱の分解途中)が散在している。